

■はじめに

本文書に記す Linux のインストール手順は、初心者がまず Linux を使える環境を持つことを目的とした、最小限の設定を行うものです。また、部分的には、岐阜経済大学井戸研究室の所属学生に向けた内容を含みます。

実際の作業全体は、次の手順で行います。

- (1) Windows のデータのバックアップ作成
- (2) Windows のディスクパーティションの変更
- (3) Linux のインストール

本文書は、(3) の Linux インストールの手順を示すものです。

■ 諸条件

(1) ソフトウェア

- ・ RedHat8.0 を使用
- ・ Windows と Linux との 2 つの OS を使用 (LILO にて選択起動)
- ・ WindowsXP (Me でもほぼ同様です。)

(2) ハードウェア

- ・ PC は CD ドライブを内臓
- ・ PC の起動時に、[F12]押下により起動ディスクの選択が可能
(そうでない場合、BIOS の設定により、起動ディスクの順序を変更する必要があります)

また、本マニュアルは、IBM のノート PC (ThinkPad R31) を用いた場合を想定して、画面イメージを作成しています。さまざまな PC では、若干異なる点があるかと思いますが、基本的には同じ操作となるはずです。

■ 準備するもの

Linux がインストールされる PC 以外に必要なものは、次のとおりです。

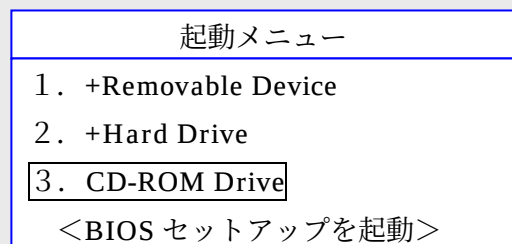
- (1) RedHat8.0 を収録した CD ⇒ 井戸が準備します
- (2) 起動ディスク作成用の FD (フロッピーディスク) ⇒ 各自準備してください

■ 手順

□1. インストーラの起動

- (1) 本体 CD ドライブに RedHat8.0 の CD を装着します。
- (2) PC を再開起動させます。
- (3) 最初の画面が出たら、直ちに[F12]キーを押下しつづけます。
- (4) <画面 1>のような起動メニューが出力されるので、カーソルキー ([↑][↓]) を操作して、3 の “CD-ROM Drive” を選択し、[Enter]を押下します。

<画面 1>



- (5) RedHat Linux のインストーラのモード選択画面（＜画面2＞、丈夫には redhat のロゴを含む画面が表示される）が英文で表示されるので、グラフィカルモードを選択するために、

[Enter]キーを押下してください。Redhat Linux のインストーラの画面が順次表示され、これらを用いて設定を行っていきます。

- (6) 続いて、インストール CD のテストを行うか否かを問う画面（＜画面3＞）が現れます。テストしない場合は、[Skip]をカーソルキーで選択して、先に進みます。テストをする場合は、[OK]をクリックするとテストが始まります。テスト終了したら、[Continue]を選択して、インストールを開始します。

- (7) 最初に、Welcome メッセージの画面＜画面4＞が出ます。[Next]をクリックして、次に進みます。

＜画面3＞

To begin testing the CD media before installation press OK.

Choose Skip to skip the media test and start installation.

＜画面2＞

VineLinux

To install or update Vine Linux2.5 in Graphical mode, press the <ENTER> key.

＜画面4＞

redhat	
Welcom to Red Hat Linux.	redhat
Red Hat Linux8.0	
Hide Help	Release Note Back Next

□ 2. 言語、キーボードマウスの選択

- (1) 画面5＞では、インストーラで用いる言語を選択します。

- (2) カーソルキー（[↑][↓]）または、マウスを操作して、“Japanese”を選択します。

- (3) [Next]をクリックします。

- (4) ＜画面6＞にて、キーボードの設定を行います。Japaneseを選択し、[次]をクリックして、次の画面に進みます。

- (5) ＜画面7＞にて、マウスの設定を行います。

- (6) マウスは、“3 Button Mouse(PS/2)”、もしくは、“3 Button Mouse(USB)”のいずれかの場合が多いと思います。画面左の説明を読んで、選択してください。[次]をクリックして、次の画面に進みます。

＜画面5＞

redhat	
Language Selection.	What language would you like to use during installation process?
Icelandic(islenska)	
Italian(Italiano)	
Japanese(日本語)	
Hide Help	Release Note Back Next

＜画面6＞

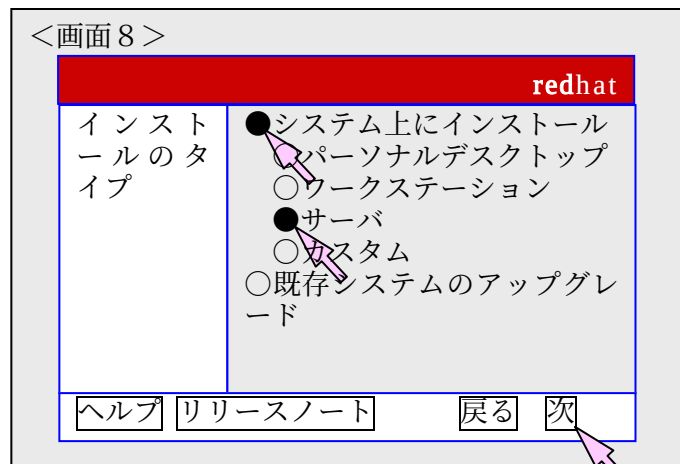
redhat	
キーボード設定	このシステム用の適切なキーボードを選択します。
Italian(IBM)	
Italian(it2)	
Japanese	
Norweian	
Norweian(latin1)	
Polish	
Portuguese	
ヘルプ	リリースノート 戻る 次

＜画面7＞

redhat	
マウス設定	システム用の適切なマウスを選択して下さい。
モデル	
3 Button Mouse(PS/2)	
3 Button Mouse(USB)	
ヘルプ	リリースノート 戻る 次

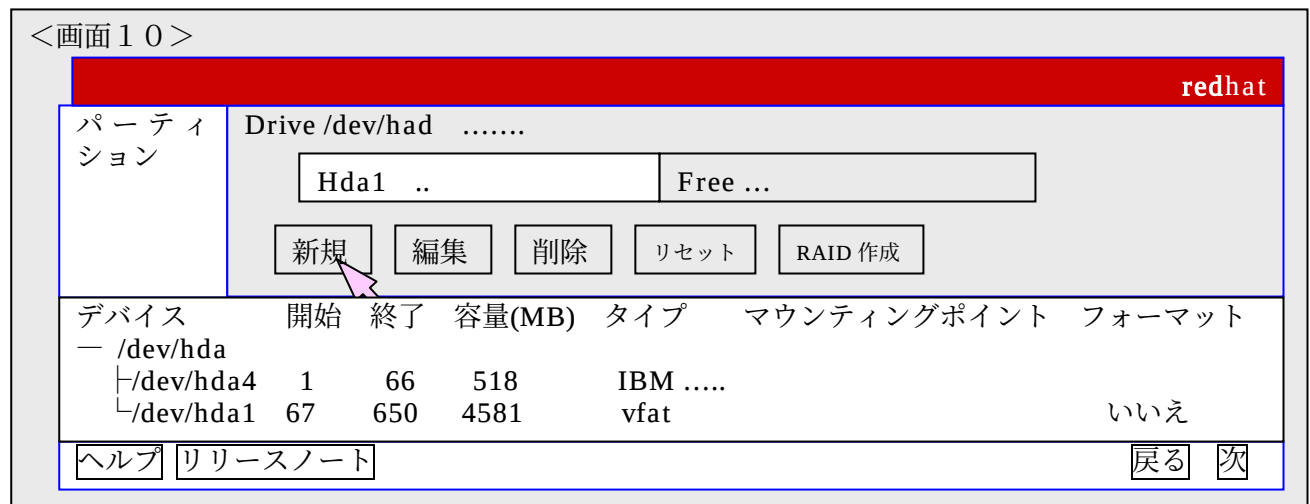
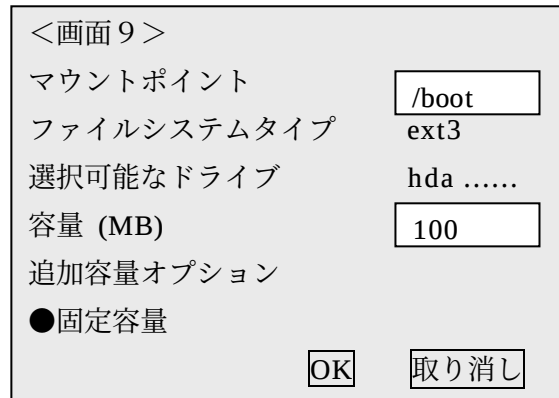
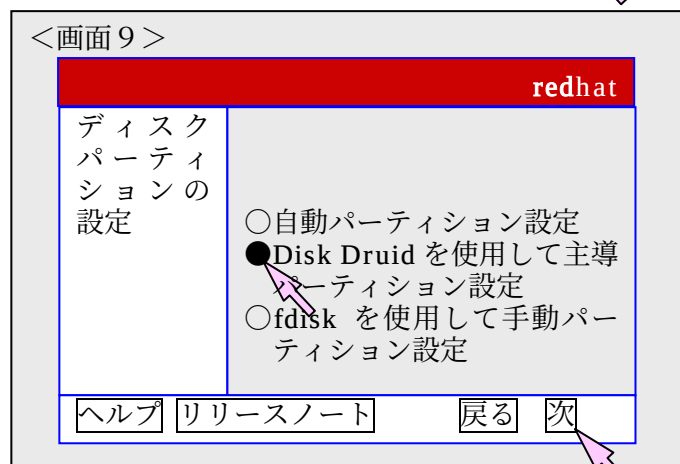
□ 3. インストールの種類

- (1) <画面 8>にてインストールの種類を選択します。
- (2) “システム上にインストール”と、“サーバ”を選択します（今回は勉強目的にサーバを選択しています）。
- (3) [次]をクリックして、次の画面に進みます。



□ 4. ディスクのパーティション設定

- (1) <画面 9>にて、パーティション分割方法の選択を行います。
- (2) “Disk Druid を使用して手動でパーティションを設定”を選択します。
- (3) [次]をクリックして、次の画面に進みます。
- (4) 警告のウインドが出ますが、“無視”をクリックします。
- (5) <画面 10>にて、パーティションの設定を行います。
- (6) まず、“/boot”のパーティションを作成します。[新規]をクリックしてください。
- (7) <画面 9>のウインドで、“マウントポイント”に“/boot”を、“ファイルシステムタイプ”に“ext3”を、“容量”に“48”を、それぞれ入力します。また、“追加容量オプション”は、“固定容量”とします。[OK]をクリックして、ひとつのパーティションが作成できました。
- (8) おなじ要領で、“/”、“/swap”、“/home”のパーティションを作成します。下の表のような設定



にしてください。表の順番通りに行ってください。

マウントポイント	ファイルシステムタイプ	容量 (MB)	追加容量オプション
/boot	ext3	100	固定容量
/	ext3	3000+2α	固定容量
/swap	swap	1000	固定容量(メモリの2倍程度)
/home	ext3	1000+α	可能な最大容量まで拡大

なお、上記の表中の”α”の値は、ディスクの残容量に合わせて決めてください。

(9) 上記(7)(8)の操作により、パーティションは<画面11>のようになります。値が細かくずれていることは無視して構いません。

(10) [次]をクリックして、次の画面に進みます。

<画面11>						
デバイス	開始	終了	容量(MB)	タイプ	マウンティングポイント	フォーマット
— /dev/hda						
/dev/hda4	1	66	518	IBM		
/dev/hda1	67	650	4581	vfat		いいえ
/dev/hda2	651	656	47	ext3	/boot	はい
/dev/hda3	657	1222	4440	ext3		
空き	657	657	< 1	自由領域		
/dev/hda5	657	1038	2996	ext3	/	はい
空き	1039	1039	< 1	自由領域		
/dev/hda6	1039	1102	502	swap		はい
空き	1103	1103	< 1	自由領域		
/dev/hda7	1103	1222	502	ext3		はい
空き	1123	1123	5	自由領域		

□ 5. ブートローダの設定

- (1) <画面12>にて、ブートローダの設定を行います。
- (2) ここでは、デフォルトでブートする OS (電源を入れて何も選択しないと立ち上がってくる OS) の選択のみをすることとします。DOS(Windows)、もしくは、Linux を選択してください。

- (3) [次]をクリックして、次の画面に進みます。

<画面12>

redhat

ブートローダの設定

デフォルトのデバイス

☒ DOS /dev/hda1

☐ RedHatLinux /dev/hda8

ヘルプ リリースノート 戻る 次

□ 6. ネットワークの設定

- (1) ここでは特に設定を変えず、[次]をクリックして、次の画面に進みます。

□ 7. ファイヤーウォールの設定

- (1) ここではセキュリティレベルを設定します。

□ 8. 言語サポートの選択

- (1) <画面14>にて、言語サポートの選択を行います。

<画面13>

redhat

インストールのタイプ

● 高 ○ 中 ○ なし

○ デフォルトのファイアウォールを使用

● カスタマイズ

信頼するデバイス

進入を許可

☒ WWW

☐ FTP

☒ SSH

☐ DHCP

☐ Mail

☐ Telnet

他のポート

ヘルプ リリースノート 戻る 次

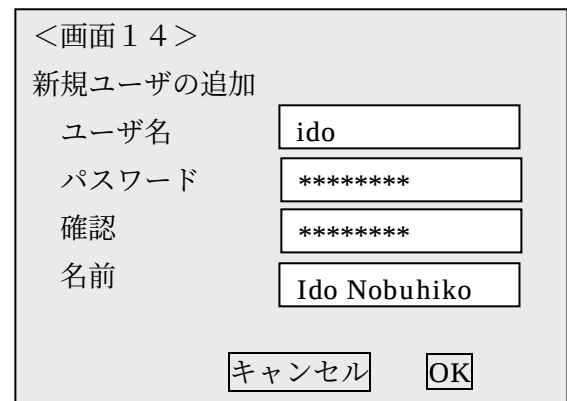
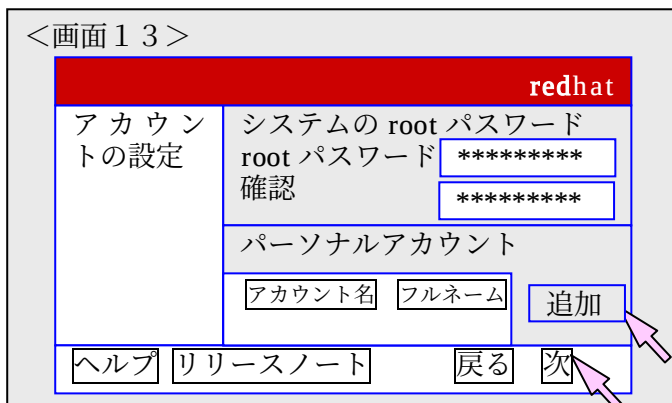
- (2) “システム標準の言語”には、“Japanese”を選択してください。
- (3) “システムに追加する言語”では、“Japanese”に加え、“English”にもチェックをつけておきます。[次]をクリックして、進みます。

□ 8. タイムゾーンの設定

- (1) ここでは特に設定を変えず（すなわち“東京”を選択したまま）、[次]をクリックして、次の画面に進みます。

□ 9. アカウントの設定

- (1) <画面 1 3>にて、アカウントの設定を行います。
- (2) まず、“システムの root(管理者)”のパスワードを設定します。確認のため、2度入力します。言うまでも無いことですが、パスワードを絶対に忘れないで下さい。自信の無い人は、書き留めて置いてください。
- (3) 次に[追加]をクリックして、自分自身のアカウントを作っておきます。
- (4) <画面 1 4>にて、ユーザ名、名前、パスワードを2度、それぞれ入力してください。パスワードは忘れないで下さい。入力したら、[OK]をクリックします。
- (5) [次]をクリックして、次の画面に進みます。



□ 10. パッケージグループの選択

- (1) スクロールして一番下の“すべて”を選択し、[次]をクリックして、次の画面に進みます。

□ 11. インストールの準備完了

- (1) [次]をクリックして、インストールを開始します。少し時間が掛かります（1時間？）。コーヒーブレイク。

□ 12. 起動ディスクの作成

- (1) フロッピーディスクを装着し、[次]をクリックします。
- (2) 装着したフロッピーディスクは、“起動ディスク”とラベルを貼って、保管しておいてください。

□ 13. グラフィカルインターフェースの設定

- (1) ここでは、インストーラが自動的に検出したビデオカードが選択されています。特に変更しないで、[次]をクリックして、次の画面に進みます。

□ 1 4 . モニタの設定

- (1) インストーラが、モニタを検出して、適当な設定が行われます。
- (2) ノート PC の場合、“モニター未検出、Unprobed Monitor”となりますが、気にしなくて OK です。
- (3) デスクトップ PC の場合、検出がうまく行かない時は、メーカー名・製品名・型番を調べて選択してください。このようなことは、あまり起こらないと思います。
- (4) [次]をクリックして、次の画面に進みます。

□ 1 5 . X 設定のカスタマイズ

- (1) 通常はインストーラの設定のままで、変更しなくても OK です。ぶどうの絵がうまく写っていない場合は、“色・深度”、“画面の解像度”の値を変えて調整してください。解像度は、付属のマニュアルや Web で調べられます。
- (2) 路銀の種類は、“グラフィカル”のままにしておいてください。

□ 1 6 . 終了画面

- (1) [完了]をクリックし、フロッピーディスクを抜いて、PC を再起動してください。

■ Linux を起動する

PC を再起動すると、どの OS(Linux or Windows)を立ち上げるかを問う画面が出てきます。カーソルキーで OS を選択して、[Enter]を押下します。タイムアウトすると、Linux が立ち上がってきます。Windows を立ち上げる際には、すばやく選択してください。

■ up2date

インストールしたLinuxの更新は、up2dateで行うと便利です。但し、RedHatへのユーザ登録が必要になります。次のサイトにやり方が書かれています。

<http://www.atmarkit.co.jp/flinux/rensai/linuxtips/194rh71autopk.html>

■ おわりに

今後、このマニュアルを改良していく予定でいます。お気づきの点があれば、教えて頂けると助かります。

—以上—